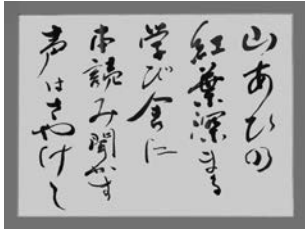


(書) 吉村美栄子 原知事
(歌) 皇太子殿下



金山小 歌会始

日本語の良さに気づき、感性を豊かに

平成27年の宮中歌会始の儀において皇太子殿下(現天皇陛下)は、「山あひの紅葉深まる学び舎に本読み聞かす声はさやけし」と詠まれました。これは平成26年の遊学の森で開催された全国育樹祭の際に金山小に来校された時のことを詠まれたものです。金山小にとっては特別な名誉であり、これを記念し、新たな伝統を築いていこう

と金山小歌会始が始まりました。

5・6年生の児童76名は、新庄龍山短歌会(山田拓代表)の皆さんから指導を受け、短歌についての理解を深め、自分なりの歌を詠みました。

今年は3年ぶりに発表会を開催し、最優秀・優秀作品に選出された9名が緊張しながらも心を込めて短歌を詠みました。最優秀作品

に選ばれた笹原夏鈴さんは、明安小学校で過ごした思い出を通学時に思い出しながら、冬が近づいていることを31文字に詰め込みました。5年柴田結月さんは「6年生の作品はどれも目標となる短歌だった。今の自分は短歌を詠むことが苦手だけど、これから言葉を磨いていきたい」と感想を述べていました。

●入賞作品

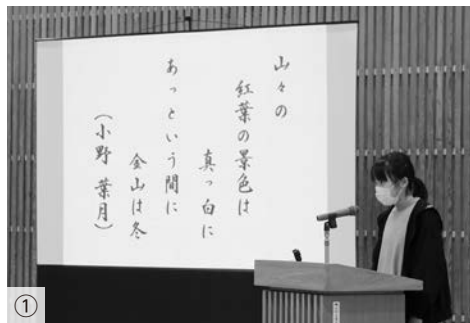
【最優秀作品】

- 山々の紅葉の景色は真っ白に あっという間に金山は冬
- 初雪に吐く息白い通学路 入学からのつもる思い出
- 木々の枝白く色づき冬もよう 友の「おはよう！」吐く息白く
- 山々の木々はすっかり雪化粧 銀に輝く金山の里

【優秀作品】

- 初雪は音なくあたりを白くそめ はしゃぐ心を運んでくるのか
- 冬が来て雪が静かに降りつもる 本当は寝たい休日の朝
- ふと白い粉が舞い降りひんやりと 冬の厳しさ思い浮かべる
- 雪が降るこたつでみかんみんなして なべのおいがおいしそうだよ
- うっすらとしもがふりゆく紅葉に きれいな秋も終わりをつげる

松田 聖也	正野 柚稀	星川 雄哉	庄司 希旺	小野 樹里	三上 琉葵	三條 夏希	笹原 夏鈴	小野 葉月
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------



①



②

①体言止めの結句で余韻がより伝わると評価された小野さんの歌
②緊張しながらも発表する笹原さん
③山田先生による入賞作品の解説



③



新庄龍山短歌会
山田 拓 先生

趣味活動での寄稿だけでなく、地域の子どもたちに短歌に親んでもらい、感性を磨いてもらうための教育活動も行っている。今回も素晴らしい作品ばかりで甲乙つけがたく審査するのが難しかった。短歌は言いたいことを31文字にぎゅっと詰め込むことで、感動や感激を表現するもの。今回だけでなく引き続き言葉を磨いていってほしい。